

本検討委員会の目的・進め方

1. 検討の背景・目的

- ・ 都心・三宮の再整備は、行政だけで実現できるものではなく、民間事業者や地域の方々、広く市民の理解と協力を得ながら、官民が連携し、進めていくべきものと考えている。
- ・ そのため、まずは官民が目指すべき将来像を共有し、その実現に向けて協働で取り組むため、「神戸の都心の未来の姿〔将来ビジョン〕と、三宮周辺地区の『再整備基本構想』」を平成 27 年 9 月に策定し、その後、具体的な事業の検討を進めてきた。
- ・ その将来像の実現に向けて、三宮クロススクエアや公共施設の再配置など行政主体の事業だけでなく、新たなバスターミナルの整備や神戸阪急ビル東館・JRターミナルビルの建替など、事業主体の異なる様々なプロジェクトが始動しているところである。
- ・ そのなかで、行政が主体的に進める事業については、平成 30 年 9 月に策定した神戸三宮「えきまち空間」基本計画をはじめ、平成 30 年度末までには概ね行政施設関連の基本計画が策定され、公共施設整備等の概要が固まってきたことから、令和元年度において経済効果を算出するものである。
- ・ 経済効果の算出にあたっては、民間の地権者が主体的に進める事業については、計画が定まっていないものがある中で、どのような算出の仕方が適切なのか、また様々な事業がどれだけの波及効果を生み出すのかなど、学識経験者のご意見をお聞きし、適切に経済効果を把握することを目的に、三宮再整備経済効果検討委員会を開催する。

2. 検討のスケジュール

- ・ 第 1 回検討会では、検討の枠組み、検討内容について議論を行う。
- ・ 第 2 回検討会を踏まえ需要予測結果、経済効果の精査を行い、第 3 回にて結果のとりまとめを行う。

	日時	議題
第 1 回	9 月 3 日	1. 本検討の枠組みについて 2. 三宮再整備事業により期待される効果について 3. 効果計測の前提条件の設定と来訪需要、オフィス需要の予測について 4. 経済効果の計測について
第 2 回	11 月 (予定)	1. 来訪需要、オフィス需要の予測① 2. 経済効果の計測①
第 3 回	1 月 (予定)	1. 来訪需要、オフィス需要の予測② 2. 経済効果の計測②